

令和 2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和3年度調査）  
医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進に係る  
評価等に関する実施状況調査

※特に指定がある場合を除いて、令和3年7月1日現在の状況についてお答えください。

※数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。わからない場合は「－」をご記入ください。

1. あなたが管理する病棟の概要についてお伺いします。

①病棟の主たる診療科をお選びください。（あてはまる番号すべてに○）

01. 内科系 <sup>注1</sup>	02. 外科系 <sup>注2</sup>	03. 小児科	04. 産婦人科・産科
05. 救急部門	06. 集中治療部門	07. 集中治療部門（小児）	08. 精神科
09. その他（ ）			

注1. 内科系:内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科等

注2. 外科系:外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科等

②(1)診療報酬上、算定している入院基本料等をお選びください。（最も病床数が多い番号一つに○）

(2)上記(1)で○をつけた入院料について、あてはまる番号を一つお選びください。

(1) 01～10のうち、最も 病床数が多い番号一つに○		(2) 左記(1)で○をつけた入院料について、あてはまる番号一つに○				
01.	一般病棟入院基本料	→	01. 急性期一般入院料 1		02. 急性期一般入院料 2	
			03. 急性期一般入院料 3		04. 急性期一般入院料 4	
			05. 急性期一般入院料 5		06. 急性期一般入院料 6	
			07. 急性期一般入院料 7		08. 地域一般入院料 1	
			09. 地域一般入院料 2		10. 地域一般入院料 3	
02.	療養病棟入院基本料	→	01. 療養病棟入院料 1		02. 療養病棟入院料 2	
			03. 療養病棟入院基本料 注11※1			
			夜間看護加算	01. 届出あり	02. 届出なし	
03.	精神病棟入院基本料	→	01. 1 0 対 1	02. 1 3 対 1	03. 1 5 対 1	04. 1 8 対 1
			05. 2 0 対 1			
04.	特定機能病院入院基本料	→	一般病棟	01. 7 対 1	02. 1 0 対 1	
			精神病棟	01. 7 対 1	02. 1 0 対 1	03. 1 3 対 1
				04. 1 5 対 1		
05.	障害者施設等入院基本料	→	01. 7 対 1	02. 1 0 対 1	03. 1 3 対 1	04. 1 5 対 1
			看護補助加算	01. 届出あり	02. 届出なし	
			夜間看護体制加算	01. 届出あり	02. 届出なし	
06.	その他の入院基本料	→	01. 7 対 1	02. 1 0 対 1	03. それ以外	
07.	地域包括ケア病棟入院料	→	01.入院料 1	02.入院管理料 1	03.入院料 2	04.入院管理料 2
			05.入院料 3	06.入院管理料 3	07.入院料 4	08.入院管理料 4
08.	回復期リハビリテーション病棟入院料	→	01.入院料 1	02.入院料 2	03.入院料 3	04.入院料 4
			05.入院料 5	06.入院料 6		
09.	小児入院医療管理料	→	01.管理料 1	02.管理料 2	03.管理料 3	04.管理料 4
			05.管理料 5			
10.	その他の特定入院料	→	01. 2 対 1	02. 4 対 1	03. 5 対 1	04. 7 対 1
			05. 1 0 対 1	06.それ以外		

※1 看護職員配置が20対1未満または医療区分2・3の患者割合50%未満の場合

③貴病棟の病床数、病床利用率をご記入ください。	
1) 病床数	床
2) 病床利用率 <sup>注3</sup>	%
3) 令和3年6月1か月間の新入院患者数	人
4) 令和3年6月1か月間の退院患者数	人
5) 平均在院日数 <sup>注4</sup>	日
6) 令和3年6月1か月間の手術を受けた患者数 <sup>注5</sup> (緊急・予定手術を問わない)	件
7) (一般病棟の場合) 貴医療機関の施設基準の届出にあたり選択している重症度、医療・看護必要度	01. I      02. II 03. 届出していない

注3. 病床利用率: 以下の式により算出し、小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位までご記入ください。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{8月～10月の在院患者延べ数}}{(\text{月間日数} \times \text{月末許可病床数}) \text{の8月～10月の合計}} \times 100$$

注4. 平均在院日数: 以下の式により算出し、小数点以下第1位まで(小数点以下第2位を切り捨て)ご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{8月～10月の在院患者延べ日数}}{(\text{8月～10月の新入院患者数} + \text{8月～10月の新退院患者数}) \times 0.5}$$

注5. 手術後に直接、当該病棟に帰棟(帰室)した患者数をご記入ください。

<b>④看護補助加算</b> (01～04のうち、○は1つ) ※地域一般入院基本料または13対1、15対1、18対1、20対1入院基本料を算定する病院のみ	01. 看護補助加算 1		02. 看護補助加算 2		03. 看護補助加算 3	
	a) 夜間 75 対 1 看護補助加算 (50 点)		(01. 届出あり		02. 届出なし)	
	b) 夜間看護体制加算 (165点)		(01. 届出あり		02. 届出なし)	
	04. 届出をしていない					
	a) 届出の予定		(01. 予定あり		02. 予定なし)	
	b) 届出をしていない理由 (あてはまる番号すべてに○)					
(01. 職員確保が困難      02. 必要性がない      03. その他 (      ))						

※以下の質問⑤～⑧は一般病棟の方のみご回答ください。それ以外の病棟の方は2. A ①へお進みください。

<b>⑤急性期看護補助体制加算</b> (01～05のうち、○は1つ) ※急性期一般入院基本料または特定機能病院入院基本料、もしくは専門病院入院基本料の7対1もしくは10対1入院基本料を届け出ている場合のみ	01. 2 5 対 1 (看護補助者 5 割以上)		02. 2 5 対 1 (看護補助者 5 割未満)			
	03. 5 0 対 1		04. 7 5 対 1			
	05. 届出をしていない					
	a) 届出の予定		(01. 予定あり      02. 予定なし)			
<b>⑥夜間急性期看護補助体制加算</b> (01～04のうち、○は1つ) ※急性期看護補助体制加算を届け出ている場合のみ	01. 3 0 対 1		02. 5 0 対 1		03. 1 0 0 対 1	
	04. 届出をしていない					
	a) 届出の予定		(01. 予定あり      02. 予定なし)			
	b) 届出をしていない理由 (あてはまる番号すべてに○)					
(01. 職員確保が困難      02. 必要性がない      03. その他 (      ))						
<b>⑦夜間看護体制加算</b> (○は1つ) ※急性期看護補助体制加算を届け出ている場合のみ		01. 届出あり      02. 届出なし				
<b>⑧看護職員夜間配置加算</b> (01～05のうち、○は1つ) ※急性期一般入院基本料または特定機能病院入院基本料、もしくは専門病院入院基本料の7対1もしくは10対1入院基本料を届け出ている場合のみ	01. 1 2 対 1 の「1」		02. 1 2 対 1 の「2」		03. 1 6 対 1 の「1」	
	04. 1 6 対 1 の「2」					
	05. なし					
	a) 届出の予定		(01. 予定あり      02. 予定なし)			
b) 届出をしていない理由 (あてはまる番号すべてに○)						
(01. 職員確保が困難      02. 必要性がない      03. その他 (      ))						

## 2. 貴病棟における看護職員・看護補助者の勤務状況等についてお伺いします。

### A. 職員数 ※以下の質問は令和3年7月1日時点の実績をご記入ください。

①貴病棟に配置されている職員数(夜勤専従者は除く)	常勤	非常勤(常勤換算 <sup>注6</sup> )
1)看護師数	人	人
1)のうち、特定行為研修を修了した看護師数	人	人
1)のうち、短時間勤務又は夜勤免除の看護師数	人	人
2)准看護師数	人	人
3)看護補助者数	人	人

注6. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第2位を切り捨てし、小数点以下第1位までお答えください。

- 1週間に数回勤務の場合:(非常勤職員の1週間の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)
- 1か月に数回勤務の場合:(非常勤職員の1か月の勤務時間)÷(貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

①-1 特定行為研修を修了した看護師がいる場合、該当する特定行為区分をお選びください。 (あてはまる番号すべてに○) ※領域別パッケージ研修を修了している場合は、該当する領域をお選びください。	
<特定行為区分>	
01. 呼吸器(気道確保に係るもの)関連	02. 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
03. 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	04. 循環器関連
05. 心臓ドレーン管理関連	06. 胸腔ドレーン管理関連
07. 腹腔ドレーン管理関連	08. ろう孔管理関連
09. 栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	10. 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連
11. 創傷管理関連	12. 創部ドレーン管理関連
13. 動脈血液ガス分析関連	14. 透析管理関連
15. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	16. 感染に係る薬剤投与関連
17. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	18. 術後疼痛管理関連
19. 循環動態に係る薬剤投与関連	20. 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
21. 皮膚損傷に係る薬剤投与関連	
<領域>	
22. 在宅・慢性期領域	23. 外科術後病棟管理領域
24. 術中麻酔管理領域	25. 救急領域
26. 外科系基本領域	

②看護職員 <sup>注7</sup> の勤務時間等(夜勤専従者は除く)(令和3年4~6月)	常勤	非常勤(常勤換算 <sup>注8</sup> )
1) 1人当たり平均勤務時間 <sup>注9</sup> ／月	時間/月	時間/月
2) 1人当たり平均夜勤時間 <sup>注10</sup> ／月	時間/月	時間/月
3) (最小値 <sup>注11</sup> )夜勤時間／月	時間/月	時間/月
4) (最大値 <sup>注11</sup> )夜勤時間／月	時間/月	時間/月
5) 1人当たり平均勤務日数 <sup>注12</sup> ／月	日/月	日/月

注7. 看護職員:保健師、助産師、看護師、准看護師を指します。

注8. 常勤換算:貴施設の1週間の所定勤務時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第1位まで(第2位を切り捨て)ご記入ください。  
例:1週間の所定勤務時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の看護職員が1人いる場合:(4日×5時間×1人)÷40時間

注9. 平均勤務時間:実際に勤務した時間です。残業時間も含まれます。

注10. 平均夜勤時間:延べ夜勤時間数÷夜勤従事者の合計数(※夜勤従事者は夜勤時間帯に病棟で勤務する時間÷夜勤時間帯に病院内(病棟+病棟外)で勤務する時間)なお、次の該当者は計算から除外してください。a)夜勤専従者(専ら夜勤時間帯に従事する者) b)急性期一入院基本料、7対1入院基本料病棟及び10対1入院基本料の病棟の場合は月夜勤時間数が16時間未満及び短時間制職員で月夜勤時間数が12時間未満の者、c)急性期一般入院基本料、7対1入院基本料病棟及び10対1入院基本料の病棟以外の病棟の場合は、月夜勤時間数が8時間未満の者。

注11. (最小値)夜勤時間/月:貴病棟で1か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。夜勤に従事していない人は除いてください。

(最大値)夜勤時間/月:貴病棟で1か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。

注12. 平均勤務日数:所定休日や休暇を除いた勤務日数の1人当たり平均値をご記入ください。

③看護補助者の勤務時間	常勤	非常勤(常勤換算 <sup>注8</sup> )
1) 1人当たり平均勤務時間 <sup>注13</sup> ／月	時間／月	時間／月

注13. 平均勤務時間:実際に勤務した時間です。残業時間も含みます。

④貴病棟に配置されている看護職員 <sup>注7</sup> の夜勤専従者数(実人数)	常勤	非常勤(実人数)
1) 看護師数	人	人
2) 准看護師数	人	人
⑤看護職員 <sup>注7</sup> の夜勤専従者の勤務時間等(令和3年4～6月)	常勤	非常勤
1) 1人当たり平均勤務時間 <sup>注9</sup> ／月	時間／月	時間／月
2) 1人当たり平均夜勤時間 <sup>注14</sup> ／月	時間／月	時間／月
3) (最小値 <sup>注15</sup> ) 夜勤時間／月	時間／月	時間／月
4) (最大値 <sup>注15</sup> ) 夜勤時間／月	時間／月	時間／月

注14. 夜勤時間:夜勤専従者について、延べ夜勤時間数÷夜勤従事者の合計数(※夜勤従事者=夜勤時間帯に病棟で勤務する時間÷夜勤時間帯に病院内(病棟+病棟外)で勤務する時間)

注15.(最小値)夜勤時間／月:貴病棟で1か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。

(最大値)夜勤時間／月:貴病棟で1か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。

## B. 夜勤体制等

①貴病棟における看護職員の勤務形態 (あてはまる番号すべてに○)	01. 2交代制 <sup>注16</sup>	02. 変則2交代制 <sup>注17</sup>	03. 3交代制 <sup>注18</sup>
	04. 変則3交代制 <sup>注19</sup>	05. 上記01.～04.の混合	06. 日勤のみ
	07. 夜勤のみ	08. その他(具体的に )	

注16. 2交代制:日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。

注17. 変則2交代制:日勤8時間、夜勤16時間といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

注18. 3交代制:日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務。

注19. 変則3交代制:日勤9時間、準夜勤7時間、深夜勤8時間といった日勤・準夜勤・深夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

②令和2年度診療報酬改定の結果、貴病棟における看護職員数や夜勤に関する状況は改定前と比較して、どのようになりましたか。(それぞれ○は1つ)			
1) 看護師数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
2) 准看護師数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
3) 看護補助者数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
4) 実際の夜勤時間の長さ(残業等含む)	01. 短くなった	02. 変わらない	03. 長くなった
5) 夜勤の回数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
6) 夜勤時の受け持ち患者数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
7) 夜勤時の繁忙度	01. 余裕ができた	02. 変わらない	03. 忙しくなった
8) 夜勤の看護職員配置数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
9) 夜勤の看護補助者配置数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
10) 夜勤をする理学療法士等(看護要員以外)の配置数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
11) 一部の者への夜勤の負担	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
12) 夜勤シフトの組み方	01. 組みやすくなった	02. 変わらない	03. 組みにくくなった
13) 夜勤の72時間要件	01. 満たしやすくなった	02. 変わらない	03. 満たしにくくなった
14) 他部署との兼務	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた
15) 短時間勤務者で夜勤時間帯に勤務する者	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った

③令和２年度診療報酬改定の結果、改定前と比較して、貴病棟の看護職員の勤務状況はどのように変化しましたか。（それぞれ○は１つ）			
1) 勤務時間	01. 短くなった	02. 変わらない	03. 長くなった
2) 残業時間	01. 短くなった	02. 変わらない	03. 長くなった
3) 有給休暇の取得状況	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
4) 総合的にみた勤務状況	01. 改善した	02. どちらかというと改善した	
	03. 変わらない	04. どちらかというと悪化した	
	05. 悪化した	06. その他（ ）	

### 3. 貴病棟における看護職員の負担軽減策の取組状況についてお伺いします。

①貴病棟における看護職員の負担軽減策についてお伺いします。									
(1) 貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。（あてはまる番号すべてに○）									
(2) 上記(1)で○をつけた取組について、取組を開始した時期にあてはまる番号へ○をつけてください。（それぞれ○は1つ）									
(3) 上記(1)で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減の効果にあてはまる番号へ○をつけてください。（それぞれ○は1つ）									
	(1)		(2) 取組を開始した時期		(3) 負担軽減効果				
	実施されている取組に○		令和2年度改定より前	令和2年度改定以後	効果がある	効果がある どちらかといえば	どちらともいえない	効果がない どちらかといえば	効果がない
(記入例)4)夜勤専従者の雇用	④	→	①	2	1	②	3	4	5
1. 看護職員の配置・勤務シフト等									
1) 看護職員の増員	1	→	1	2	1	2	3	4	5
2) 短時間勤務の看護職員の増員	2	→	1	2	1	2	3	4	5
3) 夜勤時間帯の看護職員配置の増員	3	→	1	2	1	2	3	4	5
4) 夜勤専従勤務の導入	4	→	1	2	1	2	3	4	5
5) 夜勤専従者の雇用	5	→	1	2	1	2	3	4	5
6) 2交代・3交代制勤務の見直し （変則への移行を含む）	6	→	1	2	1	2	3	4	5
7) 11 時間以上の勤務間隔の確保	7	→	1	2	1	2	3	4	5
8) 夜勤後の暦日の休日の確保	8	→	1	2	1	2	3	4	5
9) 夜勤の連続回数が2連続(2回まで)の設定	9	→	1	2	1	2	3	4	5
10) 月の夜勤回数の上限の設定	10	→	1	2	1	2	3	4	5
11) (2交代制勤務の場合)夜勤時の仮眠時間を含む休憩時間の確保	11	→	1	2	1	2	3	4	5
12) (2交代制勤務の場合)16時間未満となる夜勤時間の設定	12	→	1	2	1	2	3	4	5
13) (3交代制勤務の場合)日勤深夜、準夜日勤のシフトの回避	13	→	1	2	1	2	3	4	5
14) (3交代制勤務の場合)正循環の交代周期の確保	14	→	1	2	1	2	3	4	5
15) 早出や遅出などの看護ニーズに応じた勤務体制の導入・活用	15	→	1	2	1	2	3	4	5
16) 残業が発生しないような業務量の調整	16	→	1	2	1	2	3	4	5
17) 日勤・夜勤の業務分担等の見直し	17	→	1	2	1	2	3	4	5

①(続き)

(1) 貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

(2) 上記(1)で○をつけた取組について、取組を開始した時期にあてはまる番号へ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

(3) 上記(1)で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減の効果にあてはまる番号へ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	(1)		(2) 取組を開始した時期		(3) 負担軽減効果				
	実施されている取組に○		令和2年度改定より前	令和2年度改定以後	効果がある	効果がある どちらかといえば	どちらともいえない	効果がない どちらかといえば	効果がない
18) 夜間を含めた各部署の業務量を把握・調整するシステムの構築	18	→	1	2	1	2	3	4	5
19) 他部門(入退院支援部門等)の看護職員との業務分担	19	→	1	2	1	2	3	4	5
20) 急な欠勤の際の応援体制	20	→	1	2	1	2	3	4	5
21) ICT、AI、IoT等の活用 <sup>注20</sup>	21	→	1	2	1	2	3	4	5
22) 電子カルテの活用	22	→	1	2	1	2	3	4	5
23) オーダリングシステムの活用	23	→	1	2	1	2	3	4	5
24) 業務効率化のための手順等の見直し	24	→	1	2	1	2	3	4	5
25) 勤務時間内の委員会 <sup>注21</sup> の開催	25	→	1	2	1	2	3	4	5
26) 看護職員に出席義務のある院内の各種委員会の見直し(出席者、回数、開催時間、開催方法の見直し)	26	→	1	2	1	2	3	4	5
27) 院内保育所の設置 <sup>注22</sup>	27	→	1	2	1	2	3	4	5
28) 夜間院内保育所の設置 <sup>注22</sup>	28	→	1	2	1	2	3	4	5
29) 27) 又は28) の院内保育所における病児保育の実施	29		1	2	1	2	3	4	5
30) メンタルヘルス対策の実施	30	→	1	2	1	2	3	4	5
31) 暴言・暴力等のハラスメント対策の実施	31	→	1	2	1	2	3	4	5
32) 業務の外部委託(清掃業務、シーツ交換等)	32	→	1	2	1	2	3	4	5

注20. 当該項目に係る疑義解釈(令和2年3月31日事務連絡 問14)で示すような、看護記録の音声入力、AIを活用したリスクアセスメント、ウェアラブルセンサ等を用いたバイタルサインの自動入力等の活用を想定しており、単にナースコール、心電図又はSpO2モニター、電子カルテ等を用いていること等は含まない。

注21. 入院基本料の施設基準の「院内感染防止対策に関する基準」「医療安全管理体制に関する基準」「褥瘡対策の基準」を満たすための委員会は除きます。

注22. 病院として院内保育所または夜間院内保育所を設置している場合、それぞれ「(1)実施されている取組」欄に○をご記入いただき、(2)、(3)にご回答ください。

①(続き)

(1) 貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。(あてはまる番号すべてに○)

(2) 上記(1)で○をつけた取組について、取組を開始した時期にあてはまる番号へ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

(3) 上記(1)で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減の効果にあてはまる番号へ○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	(1)		(2) 取組を開始した時期		(3) 負担軽減効果					
	実施されている取組に○		令和2年度改定より前	令和2年度改定以後	効果がある	効果がある どちらかといえば	どちらともいえない	効果がない どちらかといえば	効果がない	
2. 看護補助者の病棟配置等										
33) 看護補助者との業務分担	33	→	1	2	1	2	3	4	5	
34) 看護補助者の増員	34	→	1	2	1	2	3	4	5	
35) 早出や遅出の看護補助者の配置	35	→	1	2	1	2	3	4	5	
36) 夜勤時間帯の看護補助者の配置	36	→	1	2	1	2	3	4	5	
37) 病棟クラークとの業務分担	37	→	1	2	1	2	3	4	5	
38) 病棟クラークの配置	38	→	1	2	1	2	3	4	5	
3. 他職種との業務分担等										
39) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士との業務分担	39	→	1	2	1	2	3	4	5	
40) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の病棟配置	40	→	1	2	1	2	3	4	5	
41) 臨床検査技師との業務分担	41	→	1	2	1	2	3	4	5	
42) 臨床工学技士との業務分担	42	→	1	2	1	2	3	4	5	
43) MSW又はPSWとの業務分担	43	→	1	2	1	2	3	4	5	
44) MSW又はPSWの病棟配置	44	→	1	2	1	2	3	4	5	
45) 薬剤師との業務分担	45	→	1	2	1	2	3	4	5	
46) 薬剤師の病棟配置	46	→	1	2	1	2	3	4	5	

※すべての施設の方がお答えください。

①-1 看護記録に係る負担軽減のための取組を実施していますか。(あてはまる番号1つに○)			
01. 実施している	→①-2へ		
02. 今年度中に実施する予定	→②へ	03. 実施する予定はない	→②へ

※上記①-1で「01. 実施している」と回答した施設がお答えください。

①-2 看護記録に係る負担軽減のため、どのような取組を実施していますか。(あてはまる番号すべてに○)	
01. 記録内容の簡素化・見直し(様式の見直し、重複書類の削減、クリニカルパスの活用等)	
02. 記録の運用方法の見直し(記録の電子化、多職種間での共同閲覧機能の拡大等)	
03. 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」の評価方法の変更(IからIIへ)	
04. ベッドサイドで記録できるシステム・仕組みの導入(タブレットやモバイルPCの活用等)	
05. バイタルデータ等の自動入力システムの活用	
06. 看護補助者やクラーク等による入力代行・支援	
07. 音声入力やボイスレコーダーを活用した看護記録の代行入力	
08. AI <sup>注23</sup> を活用したアセスメント支援システムの導入	
09. その他(具体的に: )	
①-3 上記①-2で選択した取組のうち、最も負担軽減に寄与している取組の番号をご記入ください。(番号は1つ)	

注23. AI: artificial intelligenceの略称。人工知能。

※すべての施設の方がお答えください。

②令和3年7月1日現在、貴施設は重症度、医療・看護必要度IIを届け出ていますか。(○は1つ)	
01. 届出ている	→ ②-1へ
02. 届出していない	→ ③へ

※上記②で「01. 届出ている」と回答した施設がお答えください。

②-1 いつから重症度、医療・看護必要度IIで届け出ていますか。(○は1つ)	
01. 平成30年度診療報酬改定後に、IからIIへ届出を変更した	→ ②-2へ
02. 平成30年度診療報酬改定後に、IIで届け出た(それ以前は必要度の測定を行っていなかった)	→ ③へ
03. 令和2年度診療報酬改定後に、IからIIへ届出を変更した	→ ②-2へ
04. 令和2年度診療報酬改定後に、IIで届け出た(それ以前は必要度の測定を行っていなかった)	→ ③へ

※上記②-1で「01」又は「03」と回答した施設がお答えください。

②-2 看護必要度IIに変更したことで、あてはまる番号に○をつけてください。(それぞれ○は1つ)			
1) 看護必要度に係る看護職員の記録時間の变化について	01. とても短くなった	02. 短くなった	03. 変わらない
	04. 長くなった	05. とても長くなった	
	06. その他(自由回答: )		
2) 看護必要度に係る看護職員の業務負担の変化について	01. 負担が非常に減った	02. 負担が減った	03. 変わらない
	04. 負担が増えた	05. 負担が非常に増えた	
	06. その他(自由回答: )		

※すべての施設の方がお答えください。

③どのような取組が病院で行われれば、医療従事者の負担を軽減できると思いますか。新型コロナウイルスの影響に対する取組と働き方改革全般に対する取組の違いに留意しつつ、具体的にご記入ください。また、貴病棟における看護職員の勤務状況や負担軽減に関する今後の課題等があればご記入ください。

看護師長票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

令和3年8月31日(火)までに

返信用封筒(切手不要)に封入のうえ、ご投函ください。